



Japan Intellectual Property Association

Special INTERVIEW

浅見 正弘 日本知的財産協会 理事長
富士フイルム株式会社 フェロー

わが社のこだわり

凸版印刷株式会社

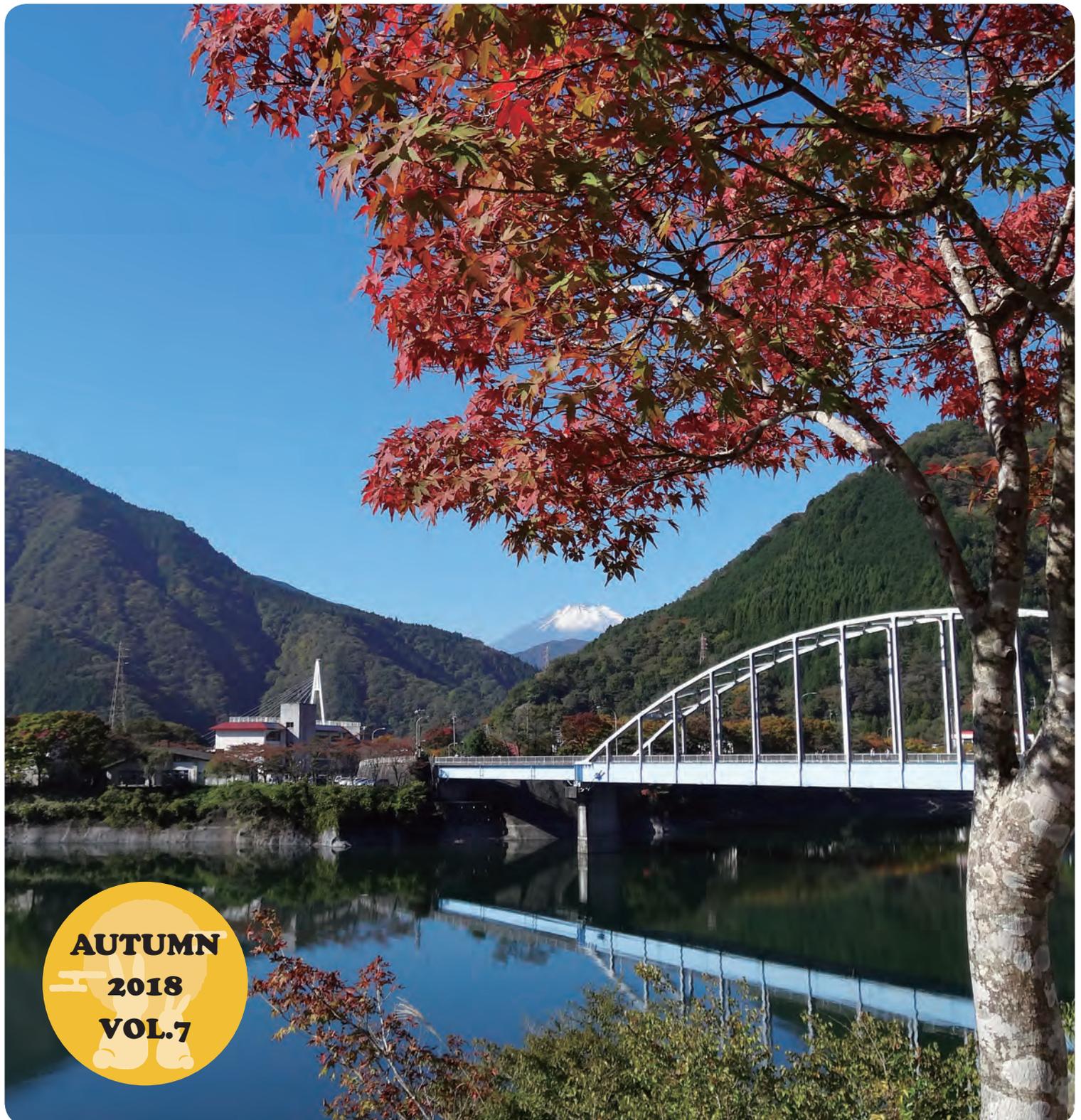
「Technology」と「Art」がクロスする場

ZOOM UP

関西金属機械部会

JIPA通信

JIPA 出張型研修



AUTUMN
2018
VOL.7

社会の急速な変化、非常に複雑な動きを受けて知財のあり方が見直される中、戸田副理事長が新たに就任した浅見理事長にインタビューを行った。

理事長就任の抱負

戸田 これまでの富士フィルムでの経験やJIPPAでの活動を踏まえ、理事長就任の抱負をお聞きしたいと思います。

浅見 JIPPAのこれまでの活動の良い点はそのまま発展させ、第4次産業革命対応など新たな視点から部会・委員会活動、特に人材育成活動をサポートしていきたいです。

急速なIT進化で産業構造、社会が大きく変化する一方、保護主義のせめぎ合いと包括的な貿易協定による国際的な困り込みが同時に進むなど、世の中の動きが複雑になっています。JIPPAとしては、企業レベルでは経営にどう貢献できるのか、国レベルでは日本の産業強化にどうつなげるのか、という視点で活動出来たら良いと考えています。

世界の覇権を争う米中に対して日本をどう位置づけるのか難しい状況ですが、日本の技術や人的資産の強みを、米中との連携を視野に知財面からしっかりと確保していくことが重要でしょう。

マネタイズを取り入れたルール作りが重要

戸田 最近話題のSDGs、ルール形成をどのようにお考えでしょうか。

浅見 SDGsは世界のために17の社会課題を皆で解決していきましょう、という素朴な話ではなく、裏には国家やグローバル企業の考え抜いた戦略とルール化を巡る必死の戦いがあります。日本が勝つ戦略を冷徹に考えるべきです。ルール形成の実状は相当厳しい戦いです。

日本企業は欧米企業に比べてマネタイズの仕組みを考えるのが苦手だと思います。戦後の高度成長期を通じて、よいものを作ったら当たり前のように売れて儲かる世界でやってきたからです。どうやって金を稼ぐのかというマネタイズの仕組みを考え、それに向けて自分たちに有利なルール形成を進めるため、相手も納得せざるを得ないSDGsのような大義名分を掲げていくことが極めて重要になります。

戸田 会社のマネタイズの議論でよくフックと回収エンジンという言葉が使われます。



Special INTERVIEW No.007

急速で複雑に変化する社会の中、 マネタイズを組み込んだ知財戦略で 経営に貢献できる人材を育てる

浅見 正弘 Masahiro Asami (写真左)

日本知的財産協会 理事長／富士フィルム株式会社 フェロー

戸田 裕二 Yuji Toda (写真右)

日本知的財産協会 副理事長／株式会社日立製作所 理事 知的財産本部長



浅見 どこをオープンにして参加プレーヤーの規模を拡大し、どこでしっかりと回収していくのか、が肝要なのですが、ITの進歩で簡単かつ低コストに大規模プラットフォームを作れるようになった。そのプラットフォーム上でどういう仕組みを乗せようというルールでやるのが決め手になってくる。例えばコンソーシアムにおけるビジネスの仕組み、知財の仕組みをJIPPAの部会や委員会でも研究してもいいかと思っています。

第4次産業革命に適合する人材育成

戸田 第4次産業革命に適合する人材育成という観点で、どのような人材が必要だとお考えでしょうか。

浅見 知財人材として必要な要件、素養、知識は変わらないと思います。第4次産業革命に直面して何が変わるかというと、ビジネス構造が根本的に転換し、しかも、極めて早く変化していくので、知財部門の人もビジネス構造の変化や経営戦略を考えて知財戦略を立てなければいけない、という点です。

戸田 知財の人は、技術はある程度わかる、法律にも明るいので、経営や事業について少し踏み込んで知識、経験を持てば、重宝がられますよね。

浅見 戦略を単純化して言えば、勝つためにどういう手を打っていくのか包括的に考えるということに尽きます。一番いい例が大河ドラマの戦国時代の戦い前夜ですよ。大将の周りに集まって、絵図面がばつと広げられる。

戸田 それこそ、ランドスケープですよ。

浅見 ええ。その絵図面をもとに、あの皆を何としても落とさねばならぬ、といった戦略目標が示されます。現代の企業活動、業界構造を俯瞰する絵図面であるパテントマップを作るのは知財部門の仕事です。戦略遂行でも、武器である特許権を強くするのは出願権利化担当、戦か和議かの交渉は渉外担当、調略も含めた誓約を契約にするのは知財契約担当と、戦略要素の殆どを知財部門が実行できます。知財はそういうポジションにいるし強みも持っている、それだけに経営からの期待は非常に大きいと思っています。

戸田 何か大変、勇気が出るお話を頂きまして、ありがとうございます。

浅見 これからの時代は知財人材が重要な役割を担うことになり、JIPPAがそうした人材育成に貢献出来れば、日本の産業にとって極めて意味のある活動になると考えています。

わが社のこだわり [凸版印刷株式会社]

「Technology」と「Art」がクロスする場

萩原 恒昭 Tsuneaki Hagiwara

日本知的財産協会 副会長
凸版印刷株式会社 執行役員 法務・知的財産本部長

TOPPAN



トッパンは2020年に創立120周年を迎えます。1900年に証券印刷からスタートした当社の事業は、その後1970年代に、コンピュータを用いた製版技術や組版技術をもとにデジタル対応力を確立し、今日のデジタルトランスフォーメーションに適応した事業を行う会社に成長しました。

一方で、印刷会社独自の立場を活かし、画像の色彩や文字の形状など、感性の領域にも深く関与し、これが文化や芸術のデジタル的再現に寄与する礎となっています。

このように、トッパンはいわば「Technology」と「Art」の両面を有する企業体であり、他の企業に無い特性を発揮することで、これからの社会をデザインしていくことを目指しています。

「印刷術」から「印刷テクノロジー」へ

トッパンは1900年に、当時の最先端印刷技術であった「エルヘート凸版法」をもって創業し、これが社名の由来となりました。その後、原点である「印刷術」を核として、幅広い分野に事業領域を拡大し、新たな技術やノウハウ、マーケティングなどを培うことにより、独自のリソースとして「印刷テクノロジー」を体系化し、優位性のある技術力を高めてきました。

今日では、この「印刷テクノロジー」にお客さま視点を加えることで、様々な課題解決に繋がるトータルソリューションを提供しています。

「コンテンツ産業」へ

トッパンはメーカーでありながら、マーケティング力を活かしたデータの分析・加工や動画制作などを含めたコンテンツ全般を扱う「デジタルコンテンツ産業」へと変容を遂げています。

Webを利用したビジネスでは、電子書籍の制作や配信を行う「BookLive!

(<https://booklive.jp/>)、全国10万店の電子チラシを配信する「Shufoo!」(<http://www.shufoo.net/>)などが代表的であり、ペーパーメディアからデジタルメディアへの



電子チラシサービス「Shufoo!」

消費者の嗜好を反映したビジネスへの転換を推進しています。

「デジタルアーカイブ」の提供と推進

特に近年では、有形文化財や自然、食文化などの無形文化財をデジタルアーカイブによって資源化、その上でVR（バーチャリアリティ）や映像などで可視化し、それらを観光・地方創生へ活用することによって価値化する、という流れを通して、観光・文化芸術立国化を推進しています。

その一環として、トッパンでは日本各地にある国宝などの文化財や史跡、観光資産の魅力を最先端の表現技術を用いて体験できる、情報発信と価値創造の共創拠点として「NIPPON GALLERY TABIDO MARUNOUCHI」を東京・丸の内開設しました。この拠点を中心として、産官学の連携を深め、日本文化の魅力を世界に向けて発信し、理解を深めることで地方創生・観光立国に貢献していきます。



著作権の重要性

トッパンが扱うデジタルコンテンツは、その多くが著作物であり、それらの複製や改変、さらには公衆送信など、事業のあらゆる場面で著作権が関わっています。当社にとって、著作権の知見は事業を行う上で欠かすことのできないものとなっています。

著作権法は、本年の改正で公正利用（Fair Use）の考え方を取り入れた柔軟な権利制限規定が導入され、また著作権者不明の著作物（Orphan Works）の利用についても裁定制度が改善されるなど、一定の整備が図られましたが、昨今の経営環境を鑑みますと、特許法で認められている「当然対抗制度」が著作権法にも早期に導入されることが望まれます。

JIPAへの期待

JIPAのスローガンは「Creating IP Vision for the World」です。このスローガンは、私が当協会の理事長を務めさせていただいた2009年に定めたものです。近年のJIPAは国内外において、このスローガンに恥じない活動を行っており、文字通り日本の、そして世界の知的財産活動をリードしているといっても過言ではありません。

今後、AIやIoTの一層の普及に伴うSEP（標準必須特許）の問題を始めとした様々な知財に関する課題が生じてくると思いますが、JIPAがリーダーとして、それらの解決に取り組んでいくことを期待しています。

今回は関西金属機械部会の活動を報告します。

同会は業種別部会の1つで、西日本の金属業と機械業の会員で構成されています。とはいえ会員数は45で、東西の金属機械、電気機器、化学の計6部会の中では最少です。また会員は愛知県から福岡県にまたがり、距離的に部会には参加しにくい会員もあります。そのため参加者は毎回約20会員、約30名といったところです。しかしその分会員同士の繋がりは濃く、出席すると常連の方は勿論、初めて会う方でも常連の代理出席の方ならすぐに打ち解けて会話が弾むのが良いところです。

当部会は年間5回開催しています。内3回は単独で開催し、残り2回は電気機

器部会や化学部会との3業種での合同部会と、電気機器部会との2業種での合同部会を開催しています。このように当部会の内外で会員企業の交流を深めています。部会の内容は施設や工場の見学、講演会、懇親会の3本立てになることが多いです。見学では業種の枠を超えた見聞を、講演会では専門知識の拡充を、そして懇親会では友好と情報交換を図っています。

さて今年度は6月に第1回の部会を開催しました。場所は兵庫県の佐用町で(ちょっと遠かったかも)、カレー事件で成分分析により脚光を浴びた放射光分析施設「SPring-8」と新設された「SACLA」を見学しました。紹介ビデオではビートたけし氏がTV番組で取材したシーンをそのまま映し、たけし氏独特の言い回しで設備の不思議さを語りま

した。おかげで難解な仕組みの施設も身近に感じながら見学できました。講演会では加藤幸江弁護士から「知財訴訟における立証の工夫」と題してお話を伺いました。証拠の集め方一つで勝負を左右すると聞き、「勝てる証拠」を意識して収集しなければならないと感じました。懇親会は「紙幅の関係」で割愛します。

今後の予定を。本誌が発行される頃には第3回目前です。今年度は宇部興産様には工場見学を、同社と特許庁様にはご講演をいただく予定に、また第4回は12月に東大の小川紘一先生にご講演を予定しております。そして第5回は現在準備中です。

見て楽しく、聞いてためになり、飲んで輪が広がるそんな部会となるよう努めます。多くの部会員のご参加をお待ちするとともに、読者の皆様には知り合いで未入会の企業に入会を勧めさせていただきますと幸いです。会員数は少なくとも濃い繋がりを目指して活動していく所存です。



SPring-8を見学



講演会

JIPA通信 JIPA出張型研修

今年度より、JIPA出張型(講師派遣型)研修がスタートしているのをご存知でしょうか?会員企業の皆様の本社や事業所、研究所等に、専属講師の西尾信彦氏(元協会事務局長)が直接お伺いして研修を行うものです。受講対象の方を経営者層・ビジネス幹部社員や、技術者リーダーなど幅広く想定し、最近の世界のビジネス情勢に対応した知財活動の活発化・啓発を中心としたコンテンツ等を数多く準備しております。講師を交えて、資料をご覧いただきながら、研修内容や研修時間のご要望等のカスタマイズにお応えします。お気軽に人材育成グループ(Tel: 03-5205-3438、Email: toiawase_s@jipa.or.jp)までご相談ください。



表紙の写真は…

「色づく丹沢湖と富士山」

株式会社ソシオネクスト 知財法務統括部 特許部 大塚 善徳

神奈川県西部を流れる酒匂川の上流に位置する丹沢湖は、「関東の富士見百景」「ダム湖百選」などに選ばれる景勝地であり、紅葉シーズンには多くの方がスポーツ、ハイキングや、一部で話題のダムカレーを目当てで訪れています。湖に流れ込む玄倉川の上流には丹沢の秘境ユースン渓谷があります。山北町はこの渓谷で見られる澄んだ青色の水面を「ユースンブルー」と名付けて、昨年商標出願をし地域振興に力を入れ始めましたが、なにせ「秘境」ですので、訪れる際には神奈川県ホームページ等をご確認してください。

本誌では、表紙写真を募集しています。テーマは季節感があり、できれば技術、特許、知財、デザインに関連があるもの。写真と説明文を[会誌広報グループ kikansi@jipa.or.jp](mailto:kikansi@jipa.or.jp)宛てにお送りください。また、「わが社のこだわり」のほか、ぜひ取り上げて欲しいというテーマがあれば、お気軽にご連絡ください。

季刊じば Vol.7
Autumn 2018
2018年10月15日発行

編集人: 一般社団法人 日本知的財産協会 会誌広報委員会
発行人: 一般社団法人 日本知的財産協会内 久慈 直登
<http://www.jipa.or.jp/kikansi/jipa.html>
印刷&DTP: NPC 日本印刷株式会社